

平成 27 年（2015 年）の秋サケの資源状況について

平成 27 年 7 月 2 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

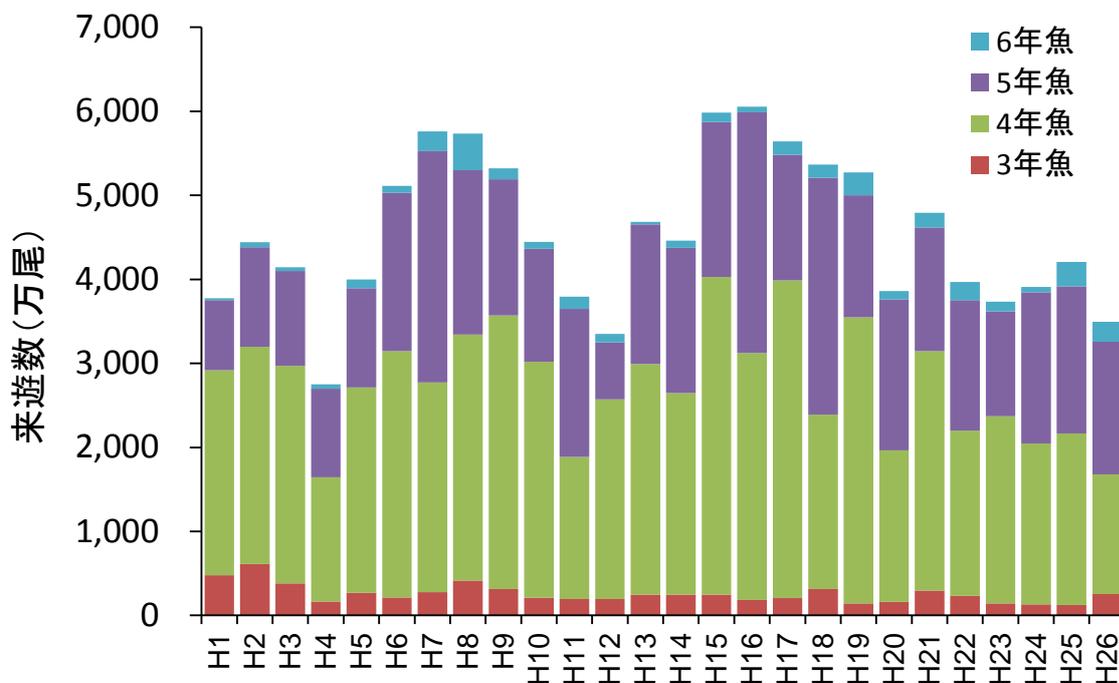


図 1 最近の北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

平成 26 年の北海道への秋サケ来遊の特徴

平成 26 年（2014 年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は 3,508 万尾にとどまり、4 年ぶりに 4,000 万尾を超えた前年より約 2 割減少し、平成 12 年以来の少ない来遊数となりました。

年齢別に見ると、主群である 4 年魚（平成 22 年生まれ）が 1,418 万尾（来遊数全体の 40.4%）にとどまり、これは平成になって以降最も少ない数でした。一方、3 年魚は最近としては数多く来遊しました。

時期別に見ると、前期の来遊数は前年とほぼ同程度でしたが（前年比 94%）、中期は大きく減少しました（前年比 72%）。これは、前期の主群である 5 年魚が前年並み（前年比 94%）の来遊数であったのに対して、中期の主群である 4 年魚が低調（前年比 67%）であったためと考えられます。

魚体サイズは平成 24 年に顕著な小型化しましたが（平均目廻り 3.10 kg）、平成 26 年はほぼ平均的なサイズに回復しました（3.49 kg）。

各海区への来遊状況

昨年の各海区への来遊数をみると、日本海とえりも以西では3年魚と4年魚が多く回帰し前年よりも増加しました。一方、道東では4年魚の回帰が近年では最も少なく、豊漁が続いていたオホーツクでも前年より大きく減少しました。5年魚が多く回帰したえりも以東は道東3海区の中で唯一、前年よりも来遊数が増加しました。

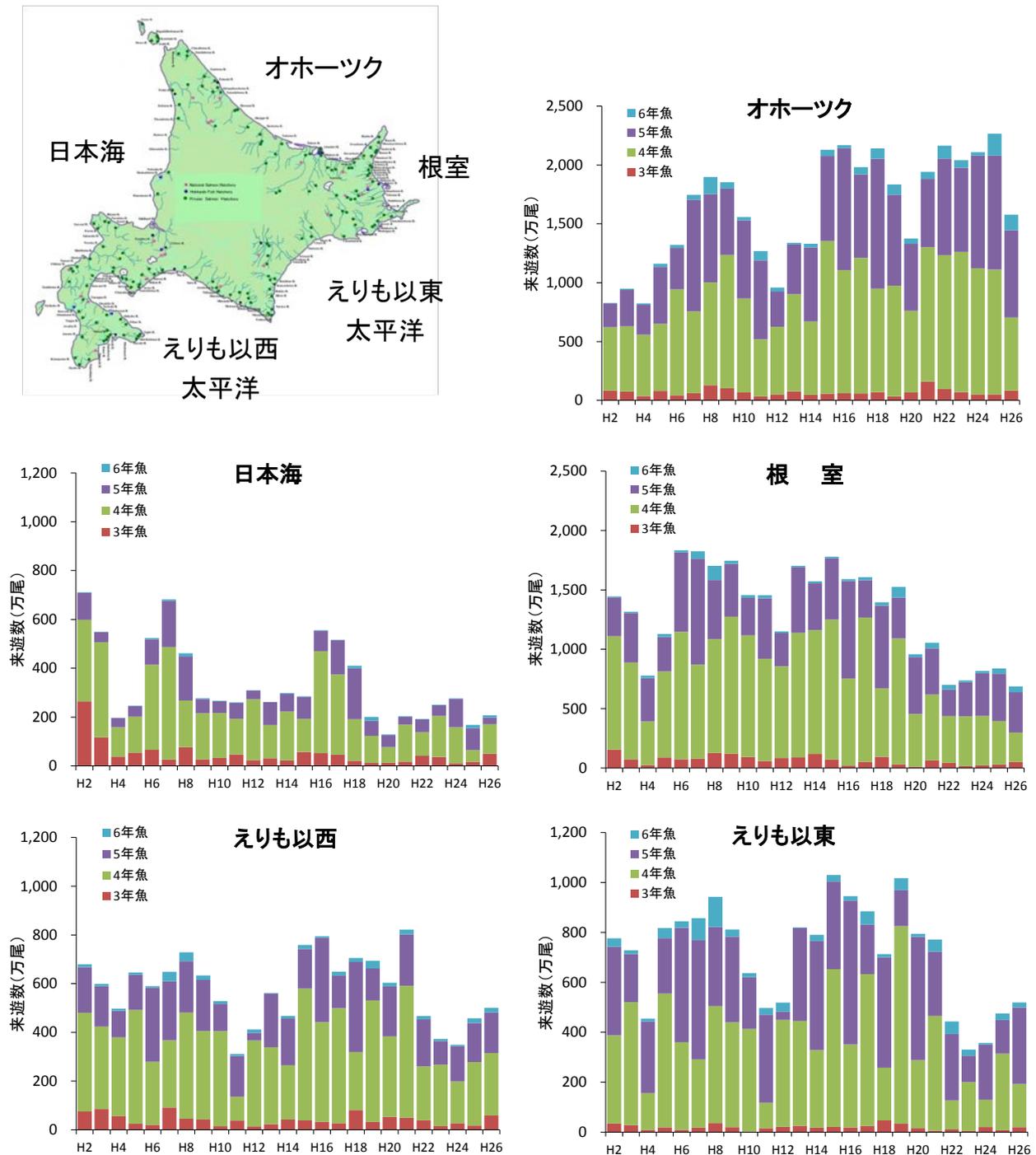
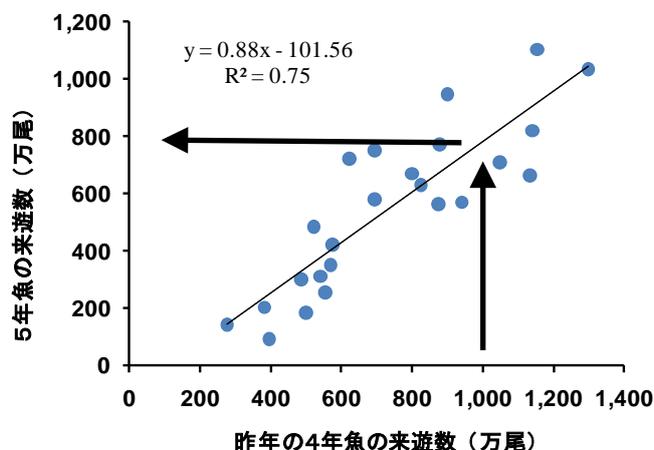


図2 最近の各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(平成 27 年)の来遊予測

昨年までと同様にシブリング法という手法を基本として今年の来遊数を予測しました。この手法では、昨年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、昨年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します。

平成26年は3年魚の来遊数が多かった地区が多く、それらの地区では今年の4年魚が多く回帰することが期待されます。そのため昨年を上回る予測となっている地区が多くなっています。



今年の予測値

平成27年(2015年)の全道への秋サケ来遊数は4,029万1千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のようになっています。

海 区	地 区	平成27年 予測値(千尾)	平成26年 来遊数(千尾)	昨年比(%)
オホーツク	東 部	9,145	7,324	124.9
	中 部	5,190	5,221	99.4
	西 部	2,999	3,323	90.3
	小 計	17,333	15,868	109.2
根 室	北 部	7,059	4,922	143.4
	南 部	2,053	1,994	103.0
	小 計	9,112	6,916	131.7
えりも以東	東 部	1,447	1,769	81.8
	西 部	3,492	3,435	101.6
	小 計	4,938	5,205	94.9
えりも以西	日 高	2,383	1,760	135.4
	胆 振	1,633	1,284	127.2
	噴火湾	1,235	1,119	110.4
	道 南	758	855	88.6
	小 計	6,010	5,018	119.8
日 本 海	北 部	1,283	1,115	115.0
	中 部	1,130	620	182.2
	南 部	485	340	142.5
	小 計	2,898	2,076	139.6
北 海 道	総 計	40,291	35,083	114.8